

秘

海軍公報

第四九四五號

昭和二十年三月一日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第三四號

海軍會計規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十八日

別表第四(丙)資金前渡官吏並ニ前渡資金取扱區分表備考第二號中「各經理部」ノ下ニ「支部ヲ含ム」ヲ加フ

内令第三二二號ノ二

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

宮崎航空基地乃至種子島航空基地ノ項中

笠ノ原航空基地

入吉航空基地

三、「第三航空艦隊」ヲ「第五航空艦隊」ニ

改ス

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一五四號

昭和十八年内令第七二號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正

要訂正
3月7日訂正済

海軍大臣官房

昭和二十年二月十五日

「第七二海軍航空隊」及「第二一〇海軍航空隊」ヲ「第三航空艦隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一六四號ノ二

海防艦 男 鹿
第百九十號海防艦

右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル

佐世保領守府在籍

右整備海防艦ト定メラル

昭和二十年二月二十一日

海防艦 男 鹿
第百九十號海防艦

内令第一六五號

右本籍ヲ横須賀領守府ト定メラル

第十九號輸送艦

右本籍ヲ吳領守府ト定メラル

第廿四號輸送艦

秘海軍公報 第四九四五號 昭和二十年三月一日

0968

昭和二十年二月二十四日

海軍大臣

官房需機密第四五號

緊急事態發生ノ爲艦船部隊(特設ヲ含ム)ニ於テ艦營需品定額表現定數ニテハ任務遂行ニ支障ヲ生ジ海軍需部ニ之ヲ増額請求ヲ爲シタル場合海軍需部長ハ艦營需品經理規程第十三條ノ規定ニ拘ラズ同部保管ノ艦營需品ヲ供給スルコトヲ得之ヲ供給整理ニ關シテハ消耗拂トス

昭和二十年二月二十八日

海軍大臣

○通牒

艦本機密第一號ノ二六三九

昭和二十年二月二十一日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、各海軍需部長殿
佐世保、舞鶴

十五糎砲通常彈ヲ特減彈トシテ使用ノ件通知

在庫首題彈丸ハ左記ニ依リ特減彈トシテ使用差支無之候

記

一 四十口徑
十五糎砲通常彈(改一)

彈丸 改一ハ其ノ儘改一ニアラザルモノハ別途通牒ニ依リ改一ニ改造使用水壓試驗未済ノモノニテ差支ナ

シ

信管 一三式一號信管改一ヲ特減用ニ改造セルモノ
炸藥 艦本一圖「一八二二二」ニ依ル
裝藥 艦本一圖「一八二二二」ニ依ル
使用砲種 四十口徑安式十五糎砲

二 十五糎砲二號通常彈

彈丸 艦本一圖「二五八二七」ニ依リ改三ニ改造使用改造ニ關シテハ別途通牒セラル

信管 九二式特減信管

炸藥 艦本一圖「二五八二七」ニ依リ改造又ハ新製

裝藥 艦本一圖「一八九七二」ニ依ル

使用砲種 四十五口徑安式、田比式 十五糎砲
四十口徑四一式(發) 十五糎砲

○雜款

○本日軍極秘海軍公報第八八號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
吳海軍工廠、舟山島警備隊、大島防備隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

0969

秘

海軍公報號外(郵便)

昭和二十年三月一日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房備第一一號ノ三
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス
昭和二十年二月一日

○發送先

- 等置機裝員事務所
- 第五航空艦隊司令部
- 第一航空戰隊司令部
- 第三四三航空隊
- 第四五二航空隊
- 第六〇一航空隊
- 北東航空隊松輪航空基地派遣隊
- 宮古島警備隊
- 第二十六震洋隊
- 第二十八震洋隊
- 第三百二十七設營隊
- 第三百三十五設營隊
- 第三百三十七設營隊

表中第三十二海軍軍用郵便所ノ項ヲ削ル

海 軍 大 臣

(參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

- 長崎市飽ノ浦、海軍監督官氣付「テ九五」
- 鹿屋市、鹿屋航空基地氣付「ツ五七六」
- 岩國市、岩國局氣付「ツ參貳八」
- 松山市、松山航空基地氣付「テ壹貳參」
- 佐世保運輸部軍用郵便監督官氣付「ツ壹七〇」
- 岩國市、岩國航空基地氣付「イ壹〇九」
- 横須賀局氣付「ツ壹〇八」
- ウ四九參
- ツ貳貳貳
- 鹿屋市、鹿屋航空基地氣付「イ壹四七」
- 「イ壹四八」經由「イ貳壹參」
- 臺灣高雄市廟後、高雄警備隊氣付「テ壹貳壹」
- 佐世保局氣付 第四海軍軍用郵便所經由「イ壹四壹」
- 京都府天田郡西中筋村字土「テ八九」
- 福井市、福井局氣付「テ壹四參」

秘海軍公報 號外(郵便)

0970

- 一 第三千十二設營隊
- 一 第三千二百十設營隊

栃木縣河内郡、城山局氣付「ツ五〇參」
 鹿屋市、鹿屋航空基地氣付 小祿航空基地經山「才壹五六」

○雜 款

○書類再送

自昭和二十年一月二十日 期間佐世保郵便局扱南方方面宛郵
 至昭和二十年一月二十一日 期間佐世保郵便局扱南方方面宛郵
 便物ハ遞送ノ途中事故ニ依リ一部亡失セリ

(佐世保海軍運輸部軍用郵便監督官)

0971

秘

海軍公報

第四九四六號

海軍大臣官廳

昭和二十年三月二日(金)

○告示

第十六特別根據地隊ニ臨時軍法會議ヲ置ク

昭和三十六年二月二十五日

海軍大臣

令 達

海軍軍人俸給家族下渡規則中左ノ

昭和三十六年二月二十八日

3月10日 改正

第五條第一項第三號中「所管ノ領守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部」ヲ「所管領守府所在地ノ海軍經理部(本邦ニ在ル警備府ニ所屬スル廳ニ在リテハ當該警備府所在地ノ海軍經理部トス)」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ、「所管ノ領守府又ハ警備府ノ變更」ヲ「所管ノ領守府又ハ所屬ノ警備府ノ變更」ニ、「舊所管ノ領守府又ハ警備府」ヲ「舊所管ノ領守府又ハ舊所屬ノ警備府」ニ、「新所管ノ領守府又ハ警備府」ヲ「新所管ノ領守府又ハ新所屬ノ警備府」ニ、同條第三項中「警備府」ヲ「所屬ノ警備府」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍公報 第四九四六號 昭和二十年三月二日

3.8

前項第三號ニ掲グル者ニシテ警備府所屬ノ廳ニ勤務スルモノニ付テハ當該警備府所在地ノ海軍經理部ハ之ガ下渡ノ掌理ヲ當該所屬廳ノ所管領守府所在地ノ海軍經理部ニ委託スルコトヲ得

第六條ノ二 俸給ノ下渡ハ月ノ十六日以後適宜ノ時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ死亡公表アリタル場合ト雖モ死亡公表前ニ前金拂ニ依リ既ニ下渡ヲ爲シタル俸給ニ付テハ下渡ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

第十八條第一項中「臨時賞與」ノ下ニ「及特別賞與」ヲ加ヘ「又ハ臨時家族手當」ヲ「臨時家族手當又ハ勤績手當」ニ、同項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ戰時増俸、賞與、臨時家族手當又ハ勤績手當ノ下渡ハ俸給ノ下渡ヲ爲シタル者ニ限り之ヲ爲シ得ルモノトス

同條第二項但書中「(十圓單位トス)」ヲ「(支給額金額又ハ十圓單位トス)」ニ、同項第二號中「増俸」ヲ「戰時増俸」ニ、「十圓單位」ヲ「支給額金額又ハ十圓單位」ニ改メ同項ニ左ノ一項ヲ加フ

四、勤績手當 全額

0972

附則

本達ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定中勤続手当ニ關スル部分ハ昭和十九年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一五二ノ二頁

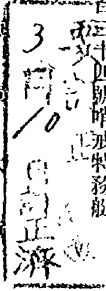
内令第一七〇號

右本籍ヲ吳鎮守府卜定ム

昭和二十年二月二十六日

海軍大臣

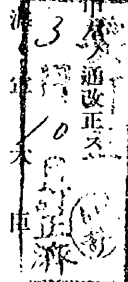
第三百三十四號附則事務



内令第一七一號

昭和十八年内令第一八三三號別表ヲ改正ス

昭和二十年二月二十六日



佐伯防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄ニ「第三百三十四號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

内令第一七四號

海軍艦政本部各部(第四部及第五部ヲ除ク)ニ置ク所要ノ課左ノ通定メラル

昭和二十年三月一日

海軍大臣

海軍艦政本部各部(第四部及第五部ヲ除ク)ニ置ク所要ノ課	總務部	第一課、第二課、第三課、第四課、第五課、第六課
會計部	第一課、第二課	
第一部	第一課、第二課、第三課	
第二部	第一課、第二課	
第三部	第一課、第二課、第三課、第四課	
第六部	第一課、第二課、第三課	

内令第一七五號

海軍航空本部各部(會計部ヲ除ク)ニ置ク所要ノ課左ノ通定メラル

昭和二十年三月一日

海軍大臣

海軍航空本部各部(會計部ヲ除ク)ニ置ク所要ノ課	總務部	第一課、第二課、第三課
教育部	第一課、第二課	
第一部	第一課、第二課	
第二部	第一課、第二課	
第三部	第一課、第二課、第三課	
第四部	第一課、第二課	

0973

第五部	第一課、第二課、第三課
第六部	第一課、第二課、第三課
第七部	第一課、第二課

訂正
3月10日
訂正済

内令第一七六號

海軍航空本部處務規程中左ノ通改

昭和二十年三月一日

第七條第一號及第十五條第一號中「試製、」ノ下ニ「審査、」ヲ加フ

第八條第一號中「航空隊」ノ下ニ「航空基地」ヲ加フ

第十三條第一號中「計畫、」ノ下ニ「審査、」ヲ加フ

第十四條第一號中「試製、」ノ下ニ「審査、」ヲ、同條第二號中「機體」ノ下ニ「關係兵器ヲ含ム」ヲ加フ

第十六條 第三部第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 航空機用ノ射撃兵器、火工兵器及化學兵器並ニ爆撃兵器ノ造修ノ綜合連絡ニ關スルコト
 - 二 第三部各課關係資料ノ一般的事項ニ關スルコト
 - 三 第三部各課關係設備ノ一般的事項ニ關スルコト
 - 四 第三部各課ノ事務ノ連絡及綜合ニ關スルコト
- 第十七條 第三部第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 航空機用ノ射撃兵器及火工兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト

- 二 航空機用ノ射撃兵器及火工兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
- 三 航空機用ノ射撃兵器及火工兵器ノ裝備ニ關スルコト
- 四 航空機用ノ射撃兵器及火工兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト

第十八條 第三部第三課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 爆撃兵器及航空機用化學兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
- 二 爆撃兵器及航空機用化學兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
- 三 爆撃兵器及航空機用化學兵器ノ裝備ニ關スルコト
- 四 爆撃兵器及航空機用化學兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト

第十九條 第四部第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 航空機用雷撃兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空機用雷撃兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
 - 三 航空機用雷撃兵器ノ裝備ニ關スルコト
 - 四 航空機用雷撃兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
 - 五 第四部各課ノ事務ノ連絡及綜合ニ關スルコト
- 第二十條 第四部第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 航空機用機雷兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト

秘海軍公報 第四九四六號 昭和二十年三月二日

0974

- 二 航空機用機雷兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
- 三 航空機用機雷兵器ノ整備ニ關スルコト
- 四 航空機用機雷兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
- 第二十一條 第五部第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航空關係ノ無線兵器及電氣兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
 - 二 航空關係ノ無線兵器及電氣兵器ノ生産ニ關スルコト
 - 三 航空關係ノ無線兵器及電氣兵器ノ出師準備ニ關スルコト
 - 四 航空關係ノ無線兵器及電氣兵器ノ官民工場ノ設備ニ關スルコト
 - 五 第五部各課關係資材ノ一般的事項ニ關スルコト
 - 六 航空關係ノ無線兵器及電氣兵器ノ造修ニ從事スル技術科士官以下ノ教育及本務ニ關スルコト
 - 七 統計及年報材料ニ關スルコト
 - 八 第五部各課ノ事務ノ連絡及綜合ニ關スルコト
- 第二十二條 第五部第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航空關係無線兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空關係無線兵器ノ工作廳ニ於ケル造修（第一課所掌事項ヲ除ク）ニ關スルコト
 - 三 航空關係無線兵器ノ整備ニ關スルコト
 - 四 航空關係無線兵器關係部外工場ノ關係技術ニ關スルコト
 - 五 航空關係無線兵器ニ關スル仕様書ノ調製及契約書案中技術ニ關スルコト

- 六 航空關係無線兵器ニ關スル發明又ハ考案ノ審査及採否ニ關スルコト
- 七 航空關係無線兵器ニ關スル技術會議ノ議案ニ關スルコト
- 八 航空本部製圖工場ノ所掌事項ニ關スルコト
- 九 統計及年報材料ニ關スルコト
- 第二十三條 第五部第三課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航空關係電氣兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空關係電氣兵器ノ工作廳ニ於ケル造修（第五部第一課ノ所掌事項ヲ除ク）ニ關スルコト
 - 三 航空關係電氣兵器ノ整備ニ關スルコト
 - 四 航空關係電氣兵器關係部外工場ノ關係技術ニ關スルコト
 - 五 航空關係電氣兵器ニ關スル仕様書及契約書案中技術ニ關スルコト
 - 六 航空關係電氣兵器ニ關スル發明又ハ考案ノ審査及採否ニ關スルコト
 - 七 航空關係電氣兵器ニ關スル技術會議ノ議案ニ關スルコト
 - 八 航空本部製圖工場ノ所掌事項ニ關スルコト
 - 九 統計及年報材料ニ關スルコト
- 第二十四條 第六部第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 第六部各課事務ノ連絡綜合ニ關スルコト
 - 二 第六部各課關係資材ノ一般的事項ニ關スルコト

0975

- 三 第六部各課關係設備ノ一般的事項ニ關スルコト
- 第二十五條 第六部第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航空機用計器(關係兵器ヲ含ム以下同ジ)ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空機用計器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
 - 三 航空機用計器ノ裝備ニ關スルコト
 - 四 航空機用計器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
- 第二十六條 第六部第三課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航空關係光學兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空關係光學兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
 - 三 航空關係光學兵器ノ裝備ニ關スルコト
 - 四 航空關係光學兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
- 第二十七條 第七部第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 基地兵器及發着兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 基地兵器及發着兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
 - 三 基地兵器及發着兵器ノ地上裝備ノ計畫及審査ニ關スルコト
 - 四 艦船ノ航空關係ノ兵裝及機裝ノ計畫及審査ニ關スルコト
 - 五 基地兵器及發着兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
 - 六 第七部各課ノ事務ノ連絡及綜合ニ關スルコト
- 第二十八條 第七部第二課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 航空關係車輛兵器ノ計畫、試製、審査、研究、實驗及改良ニ關スルコト
 - 二 航空關係車輛兵器ノ工作廳ニ於ケル造修ニ關スルコト
 - 三 航空關係車輛兵器ノ準備、保管及供給ニ關スルコト
 - 第二十九條 第一部第二課、第二部各課、第三部第二課及第三課、第四部各課、第六部第二課及第三課、第七部各課ハ第十條乃至第十五條、第十七條乃至第二十條、第二十五條乃至前條ニ定ムルモノノ外各其ノ所掌事項ニ應ジ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 所掌物件關係官民工場ノ設備ニ關スルコト
 - 二 所掌物件關係部外工場ノ關係技術ニ關スルコト
 - 三 所掌物件ニ關スル仕様書ノ調製及契約書案中技術ニ關スルコト
 - 四 所掌物件ノ出師準備ニ關スルコト
 - 五 所掌物件ニ關スル發明又ハ考案ノ審査及採否ニ關スルコト
 - 六 所掌物件ニ關スル技術ニ從事スル技術科士官以下ノ教育及本務ニ關スルコト
 - 七 所掌兵器ニ關スル技術會議ノ議案ニ關スルコト
 - 八 航空本部製圖工場ノ所掌事項ニ關スルコト
 - 九 統計及年報材料ニ關スルコト
- (内令提要卷一、二三頁參照)
- 内令第一七七號
艦隊令ノ特例ニ關スル件中左ノ通改正セラル

昭和二十年三月一日

第一項ノ前ニ左ノ三項ヲ加フ

大東亞戰爭中艦隊ハ艦隊令第一條第一項及第二項ノ規定ニ依ルノ外必要ニ應ジ聯合航空隊ニ隊以上ヲ以テ之ヲ編成スルトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ艦隊令第三十四條ノ規定ハ聯合航空隊司令官ニ之ヲ準用ス但シ戰隊トアルハ聯合航空隊トス

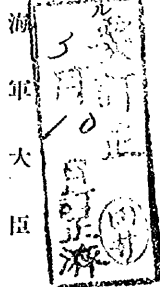
前項ノ規定ニ依ル聯合航空隊司令官ニハ海軍聯合航空隊令第五條第二項、第六條及第七條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

(内令提要卷一、三〇ノ六七頁參照)

内令第一七八號

特設艦船部隊令中左ノ通改正セラレ

昭和二十年三月一日



海軍大臣

第五十七條ノ二第一項中「所在地名ヲ冠ス」ヲ「(港灣地帯ニ置クモノニ在リテハ某港灣警備隊、各所在地名ヲ冠ス)ニ改ム

第五十七條ノ三ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ港灣地帯ニ置ク特設警備隊ハ主トシテ其ノ所在港灣ノ防衛、在泊船舶ノ防護及水路ノ確保等ニ任スルモノトス

(内令提要卷一、五八ノ一頁參照)

内令第一七九號

海軍技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部、課中左ノ通改正セラレ

昭和二十年三月一日

第一海軍技術廠ニ置ク所要ノ部中「推進機部、」ノ下ニ「噴進部、」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ一六頁參照)

官房人機密第一二四號

本年二月十一日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年二月十一日

海軍大臣

記

那山海軍航空隊	第一那山海軍航空隊
岡崎海軍航空隊	第一岡崎海軍航空隊
河和海軍航空隊	第一河和海軍航空隊
出水海軍航空隊	第一出水海軍航空隊
相模野海軍航空隊	第一相模野海軍航空隊

官房機密第一號

當分ノ間左ノ上欄ニ掲グル臨時講習員ノ身體檢査規格ハ概ネ各

0977

下欄ノ規格ヲ準用スルモノトス
昭和二十年二月二十八日

海軍大臣

臨時砲術(對空)、戰車、化兵	砲術練習生
船舶警戒要員(爆雷)、臨時水雷術、機雷術	水雷術練習生
船舶警戒要員(應急)、魚雷艇	運用術練習生
船舶警戒要員(見張)	信號術練習生
船舶警戒要員(信號)	信號術練習生
對潛術、船舶警戒要員(水測)、水測兵器整備	水測術練習生
臨時通信術	電信術練習生
臨時機關術	機關術練習生
臨時電機術	電機術練習生
臨時魚雷艇機關取扱	機關術練習生
臨時小型ターゼル機械取扱	電測術練習生
船舶警戒要員(電測)	電測術練習生
臨時電測術	電測術練習生
潜水艦又ハ之ニ準ズル艦船(艇)乗員ト爲ルベキ各種ノ臨時講習員	海軍潜水艦乗員身体検査規格(採用時)

○通牒

軍務一機密第一五四號
昭和二十年三月一日

秘海軍公報 第四九四六號 昭和二十年三月二日

海軍省軍務局長

聯合艦隊、各鎮守府、各警備府、海上護衛 參謀長殿

港灣水路ノ防衛ニ關スル件申進

海上交通保護ニ關聯ヲ有スル港灣水路ノ防衛ハ海上護衛總司令部第二條ニ依ル司令部所掌ノ範圍ニ屬シ同令第六條ニ依リ海上護衛司令長官ハ之ニ關シ鎮守府司令長官、警備府司令長官及商港警備府司令長官ヲ區處シ得ル義ヲ承知相成度、

經給第四〇號

昭和二十年二月二十八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

係給家族下渡實施細目ノ件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一一四號申左ノ通改正致候

十一ノ二 規則第十四條ノ死亡公表ノ日トハ給與掌理者カ人事局長、人事部長、當該所屬長等ヨリ正式ニ死亡ノ通知ヲ

接受シタル日ヲ謂フ但シ死亡ノ通知ヲ接受スル以前ニ海軍

葬儀ヲ執行セラレタルトキハ其ノ葬儀ノ日ヲ以テ死亡ノ通

知ヲ接受シタル日ト看做ス

十七 左ノ勤績手當及特別賞與ハ本人ノ請求ヲ俟ツコトナク

昭和十九年十二月分ヨリ係給ト共ニ當該下渡廳ニ於テ之方

下渡ヲ爲スモノトス

(イ) 昭和十九年十二月以降係給ノ下渡ヲ爲シアル軍人ノ勤

0978

續手當但シ俸給ノ下渡ヲ爲シアル月分ニ限ル
特別賞與支給期ニ於テ現ニ賞與ノ下渡ヲ爲シアル者ノ特別賞與

前項ニ依リ勤續手當及特別賞與ノ下渡ヲ開始シタル場合ハ其ノ旨當該下渡廳ヨリ本人ノ所屬廳ニ通報シ該所屬廳ニ於テハ其ノ適否ヲ調査シ過不足拂アル場合ハ其ノ旨當該下渡廳ニ通知スルモノトス

軍人ニシテ昭和二十年四月以降新ニ俸給ノ下渡ヲ請求ヲ爲スモノ又ハ勤續手當支給資格ノ發生シタルモノ竝ニ軍屬ノ勤續手當ノ下渡ハ本人ノ請求ニ依ルモノトス

(参照) 海軍機密會計法規類集一五二ノ九頁

施本第二〇二號ノ五六五

昭和二十年二月二十八日

海軍施設本部長
海軍省 經理局長

關係各廳長 殿

大東亞戰爭中國有財産ノ取扱ニ關スル件申進

大東亞戰爭中國有財産ノ取扱ニ關シテハ左記各號ニ依ルコトニ定メラレ候

記

一部隊ノ編制替又ハ官制ノ改正ニ依リ所屬鎮守府又ハ警備府ニ變更アリタル場合國有財産ノ所屬替又ハ供用替ニ關シテハ

海軍施設工務規則第四十三條ノ手續ヲ省略スルモノトス
二 防空及防備強化其ノ他作戰上ノ必要ニ依リ既設國有財産(建物又ハ工作物)ヲ解毀シタルトキハ海軍施設工務規則第四十三條第一項ノ手續ヲ省略シ事後同條第二項ノ規定ニ準ジ海軍大臣ニ報告スルモノトス

○ 雜 款

○轉勤者赴任先

當地方面ハ冬期交通杜絶勝チニ付當基地ヘノ赴任轉勤者竝ニ輸送物品ハ左ノ鐵道便ニ依ラレタシ

敷香驛—上敷香驛間(二一・七軒)

樺太敷香郡敷香町字上敷香

(北東海軍航空隊敷香航空基地)

○本日軍極秘海軍公報第八九號(甲配付)及同第九〇號(乙配付)發行セリ

乙配付先

關係各司令部、第十航空艦隊所屬各航空隊、各海軍經理部

0979

秘

海軍公報 第四九四七號

昭和二十年三月三日(土)
海軍大臣官房

○令 達

達第三六號

海軍勤続手当支給規則左ノ通定ス

昭和二十年二月二十八日

海軍勤続手当支給規則

第一條 特務士官、准士官及下士官(以下單ニ武官ト稱ス)並ニ勤続五年以上ノ文官同待遇者、囑託者、雇員及傭人(以下單ニ軍屬ト稱ス)ニハ本則ニ依リ勤続手当ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 高等文官同待遇者及高等文官待遇又ハ判任文官待遇ノ囑託者ニシテ俸給若ハ報酬年額千八百二十圓又ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユルモノ

二 雇員、傭人又ハ無待遇囑託者ニシテ給料又ハ報酬月額百五十圓(日給者ニ在リテハ日額五圓以下之ニ同ジ)ヲ超ユルモノ

三 俸給、給料又ハ報酬(一時ノ報酬ヲ除ク)ヲ受ケザル者又ハ海軍ノ勤務ヲ本務トセザル者

第二條 勤続手当ノ額ハ別表ニ依ル

要訂正
3月10日訂正済

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ拘ラズ其ノ直前ニ於テ支給ヲ受ケタル額ニ依ル勤続手当ヲ引續キ支給ス

一 高等文官同待遇者又ハ高等文官待遇囑託者ニ非ザル職員トシテ滿十五年以上勤続シタル後高等文官同待遇者又ハ高等文官待遇若ハ判任文官待遇ノ囑託者ニ任用又ハ採用セラレ俸給若ハ報酬年額千八百二十圓又ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユルニ至リタルトキ

二 雇員、傭人又ハ無待遇囑託者トシテ滿十五年以上勤続シタル後給料又ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユルニ至リタルトキ

第四條 海軍部内ニ勤務スル軍屬在籍ノ儘陸軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキハ所屬廳ニ於テ武官トシテ勤続手当ヲ支給ヲ受クベキ者ニ付テハ之ヲ支給スルノ外俸給、給料又ハ報酬ノ差額補給ノ支給ヲ受クル者ニ限り更ニ在籍廳ニ於テ引續キ従前ノ額ヲ支給ス

海軍部内ニ勤務スル軍屬在籍ノ儘陸軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキハ俸給、給料又ハ報酬ノ差額補給ノ支給ヲ受クル者ニ限り在籍廳ニ於テ引續キ従前ノ額ヲ支給ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ前後ノ期間ハ之ヲ軍屬ノ勤続年數ニ通算ス

秘海軍公報 第四九四七號 昭和二十年三月三日

二二九

0980

一 海軍ノ軍人、文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人又ハ工員（傭員ヲ含ム以下之ニ同ジ）相互間ニ於テ轉官、轉職、轉囑、轉雇又ハ轉備セラレタルトキ

二 海軍ノ軍人、文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人又ハ工員ニシテ離現役、召集解除、退官、退職、解囑、解雇若ハ解備ノ日又ハ其ノ翌日再ビ之等ノ者ニ任用又ハ採用セラレタルトキ

三 海軍部内ニ在籍ノ儘海軍又ハ陸軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四 海軍部内ニ勤務シタル者ニシテ兵役ニ服スル爲退官、退職、解囑、解雇又ハ解備ト爲リタルモノ離現役又ハ召集解除ノ日ヨリ九十日以内ニ再ビ海軍部内ニ於テ任用又ハ採用セラレタルトキ

前項第一號及第二號ノ規定ハ海軍部外ノ官公署ニ勤務シタル有給職員ニシテ海軍ノ文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人又ハ工員ニ任用、轉官、轉職、轉雇、轉備又ハ採用セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六條 軍屬ノ勤続年數ノ計算ニ當リテハ文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人又ハ工員ニ任用又ハ採用（軍人タル期間ニ在リテハ入團又ハ入隊）ノ日ノ屬スル月ノ一日ヲ以テ其ノ開始トス

第七條 左ノ期間ハ事故發生ノ日ノ屬スル月ヨリ其ノ終了ノ日ノ前日ノ屬スル月迄軍屬ノ勤続年數ヨリ之ヲ除算ス但シ被告

事件不起訴、免訴又ハ無罪ニ歸シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 處刑、留置、勾留、處罰又ハ被告事件ノ爲護送中ノ期間但シ處罰中勤務ニ服シタル期間ハ此ノ限ニ在ラズ

二 歸休中ノ期間

三 待命（公務傷病手當ノ支給ヲ受クル期間ヲ除ク以下之ニ同ジ）、休職（應徴ノ爲ノモノ或ニ公務傷病手當ノ支給ヲ受クル期間ヲ除ク以下之ニ同ジ）又ハ停職中ノ期間但シ其ノ後復職シタル者又ハ再ビ勤務ヲ命ゼラレタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

四 擅ニ職役ヲ離レ又ハ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レタル期間

第八條 勤続手當ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ事故發生ノ日ノ屬スル月ヨリ其ノ終了ノ日ノ前日ノ屬スル月迄其ノ支給ヲ停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シタルトキ又ハ被告事件繫屬中死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 處刑、留置、勾留、處罰又ハ被告事件ノ爲護送セララルトキ但シ處罰中勤務ニ服シタル期間ハ此ノ限ニ在ラズ

二 待命、休職又ハ停職ヲ命ゼラレタルトキ

三 擅ニ職役ヲ離レ又ハ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レタルトキ

第九條 勤続手當支給ノ開始ハ武官ニ在リテハ任用、進級、召集ノ日ノ屬スル月分ヨリトシ軍屬ニ在リテハ左ニ依ル

一 四月乃至六月ノ間ニ於テ資格ヲ生ジタル者ニ付テハ七月

分ヨリ
 二 七月乃至九月ノ間ニ於テ資格ヲ生ジタル者ニ付テハ十月分ヨリ
 三 十月乃至十二月ノ間ニ於テ資格ヲ生ジタル者ニ付テハ一月分ヨリ
 四 二月乃至三月ノ間ニ於テ資格ヲ生ジタル者ニ付テハ四月分ヨリ

第十條 勤続手當ヲ支給ヲ受クル者離現役、召集解除、進級、退官、轉官、退職、解僱、解雇、解備等ニ依リ資格ヲ失ヒタルトキ若ハ死亡シタルトキ又ハ第一條第一號乃至第三號ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ（第三條ノ適用ヲ受クル場合ヲ除ク）ハ其ノ日ノ屬スル月分ノ全額ヲ支給ス

第十一條 本則ニ定ムルモノノ外勤続手當ノ支給ニ關シテハ俸給、給料又ハ報酬支給ノ例ニ依ル

附則
 第十二條 本則ハ昭和十九年十二月一日以後ノ給與ニ付テハ適用ス
 昭和十九年十二月一日現ニ別表ニ該當スル武官ニハ第九條ノ規定ニ拘ラス昭和十九年十二月分ヨリ勤続手當ヲ支給ス
 昭和十九年九月三十日迄ニ別表ニ該當スルニ至リタル軍屬ニハ第九條ノ規定ニ拘ラス昭和十九年十二月分ヨリ勤続手當ヲ支給ス

第十三條 昭和十九年十二月一日現在ニ於テ俸給若ハ報酬年額

秘海軍公報 第四九四七號 昭和二十年三月三日

千八百二十四圓又ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユル高等文官同待遇者及高等文官待遇又ハ判任文官待遇ノ囑託者並ニ給料若ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユル雇員、傭人及無待遇囑託者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第一條第一號及第二號ノ規定ニ拘ラス俸給若ハ報酬年額千八百二十四圓又ハ給料若ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユルニ至リタル時迄ノ勤続期間ニ對スル勤続手當ヲ支給ス

一 俸給若ハ報酬年額千八百二十四圓ヲ超ユルニ至リタルトキ迄滿十五年以上高等文官同待遇者又ハ高等文官待遇囑託者ニ非ザル職員トシテ勤続シタルトキ

二 給料若ハ報酬月額百五十圓ヲ超ユルニ至リタルトキ迄滿十五年以上雇員、傭人又ハ無待遇囑託者トシテ勤続シタルトキ

前項ノ規定ニ該當スル者ノ勤続年數ノ計算及勤続期間ノ通算ニ付テハ第五條乃至第七條ノ規定ニ依ル

(別表)

區分	月		額
	武官、文官同待遇者及文官待遇囑託者	雇員、傭人及無待遇囑託者	
一、二等下士	七〇〇	五〇〇	
一、二等上士	一五〇〇	一、二〇〇	
十年以上十五年未滿勤続ノ軍屬			

0982

准	士	官
十五年以上二十年未満勤続ノ軍屬	二五〇〇	一八〇〇
特務士官タル各科中少尉	三五〇〇	二五〇〇
十五年以上三十五年未満勤続ノ軍屬	四五〇〇	三三〇〇
特務士官タル各科大尉		

考 備

一 特務士官タル大尉ヨリ任用セラレタル士官タル大尉及特務士官タル各科大尉ノ額ヲ支給ス

二 特務士官タル大尉ヨリ士官タル大尉ニ任用セラレタル者少佐ニ進級シタルトキハ大尉トシテ支給ヲ受ケタル俸給ト特務士官タル各科大尉ノ勤続手当トノ合計額少佐ノ俸給ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ勤続手当トシテ支給ス

三 豫備准士官ニハ准士官ニ付定ムル額、豫備下士官ニハ下士官ニ付定ムル額ヲ夫々支給ス

四 豫備准士官ヨリ任用セラレタル豫備士官タル少佐以下ノ者ニハ豫備准士官ノ額ヲ支給ス

○通 牒

軍務一機密第一五七號
昭和二十年三月一日

海軍省軍務局長

各領守府參謀長
各警備府參謀長 殿

工事艦船裝備機銃ノ陸上移裝ニ關スル件申進
部内工作廳ニ於テ工事ヲ施行スル艦船ニシテ工事期間長期ニ亘リ且對空火器ノ全能發揮困難ナル場合ニ於テハ艦(船)長ハ所

在領守府、警備府ト協議ノ上工事期間並ニ緊急出撃ニ影響ナキ範圍内ニ於テ裝備機銃ノ一部ヲ一時附近陸上ニ移裝(要員共)差支ナキ内意ニ有之候

海人二機密第七號ノ三
昭和二十年二月二十八日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

各領守府參謀長殿

兵役免除ノ制限ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年海人機密第八號ノ一八(内令提要卷二、六頁ノ三參照)通牒中左記ノ通改正セラレ候條了知相成度

○雜 款

第二號第二項及第三號中「但シ搭乗員、」ヲ「但シ掌潛航兵、潜水艦講習終了者、搭乗員、」ニ改ム

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
第三一二海軍航空隊	横須賀海軍航空隊内	二月五日		
第三千十五設營隊	千葉縣山武郡大網町	二月五日		二月五日 日後轉
第三千十七設營隊	横須賀海軍施設部戸塚教導設營班内	二月五日		

秘海軍公報 第四九四七號 昭和二十年三月三日

期日及時刻		大東亞戰爭戰歿者		喪葬管理者		場所		記事	
三月五日	一〇〇〇	故海軍少佐藤木	繁外諸勇士	福岡地方海軍人事部長	福岡市縣公會堂	同	佛式		
三月五日	一〇〇〇	故海軍少將山田	武次外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀市海軍靈安所	同	同		
三月十二日	〇九〇〇	故海軍大佐土井	卓三外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市西本願寺	同	同		
三月十三日	一〇三〇	故海軍技師千田	金治外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	仙臺市東本願寺	同	同		
三月十三日	一〇一五	故海軍少佐河合	優外諸勇士	靜岡地方海軍人事部長	靜岡市公會堂	同	同		
三月十四日	一一〇〇	故海軍少尉田中	敏郎外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	宇都宮市縣教育會館	同	同		
三月二十二日	一三〇〇	故海軍大尉菊地	恭外諸勇士	札幌地方海軍人事部長	札幌市東本願寺	同	同		
三月二十三日	一二三〇	故海軍少佐倉科	孝雄外諸勇士	長野地方海軍人事部長	長野市藏春閣	同	同		

合同海軍葬儀執行

第百九十二號海防艦 機裝員事務所	長崎市徳ノ浦海軍監督官事務所内	三月八日		○事務所撤去			
伊號第二百四潜水艦 機裝員事務所	吳海軍工廠内	三月三日		事務所			
第二百三聯合航空隊 司令部	第二出水海軍航空隊内	三月一日		第百五十四號海防艦機裝員事務所	二月七日		
第三千十四設營隊	茨城縣西茨城郡東那珂村	三月一日		第十八號輸送艦機裝員事務所	二月二二日		
海軍聯合航空總隊司令部 殘務整理班	霞ヶ浦海軍航空隊内	三月一日		第二百十三號海防艦機裝員事務所	二月二二日		
第十八聯合航空隊司令部 殘務整理班	第二出水海軍航空隊内	自三月一日起 至三月二六日	三月一日 日移隊 日解除	特設他艦快風丸機裝員事務所	二月一四日		
	第一相模野海軍航空隊内	自三月一日起 至三月二六日	三月一日 日解除	海防艦日斗機裝員事務所	二月一九日		

0984

三月二十九日 一〇三〇	故海軍少佐小丸仁良外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	福島市縣公會堂	同
三月二十九日 一〇三〇	故海軍大佐千木十三四外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	前橋市群馬會館	同
三月二十九日 〇九三〇	故海軍少佐浮村安彦外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	同

○本日軍極秘海軍公報第九一號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
吳海軍工廠、石垣島警備隊、關係各學校

0985

秘

海軍公報 第四九四八號

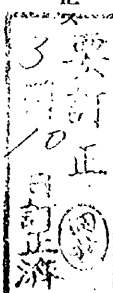
昭和二十年三月四日(日)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一六七號

緊急戰備促進部規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十五日



海軍大臣

別表幹事ノ部中「(主任)海軍省軍務局第一課長」ヲ「海軍省軍務局第一課長」ニ改メ同部中末尾ニ「(主任)海軍省出仕 一人」ヲ加ヘ幹事輔佐ノ部中「(常任)海軍省軍務局局員 一人」ヲ削ル

(内令提要卷一、二二ノ三頁参照)

官房需第三九號

當分ノ開部隊、學校、病院等ニ於テ糧食生産ノ爲種畜、種禽又ハ活魚介類ヲ要スル場合ハ海軍軍需部ヨリ供給ヲ受ケ又ハ之ヲ直接購買スルコトヲ得

前項ノ種畜、種禽及活魚介類ノ整理ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ之ヲ通牒セシム

昭和二十年三月二日

海軍大臣

○通 牒

海人三機密第一號ノ四三

昭和二十年三月一日

海軍省人事局長
海軍省教育局長

各領守府參謀長
各警備府參謀長 殿

各種講習員中不適者ノ取扱ニ關スル件申進

各種下士官及兵講習員中當該講習ヲ履修セシムルニ適セズト認ムル者アルトキハ講習實施廳長ニ於テ各學校又ハ練習航空隊練習生ニ準ジ之ヲ取扱フコトニ定メラレ候

追テ講習期間中ニ新兵基礎教育ト術科教育ヲ併セ實施スベキモノニ在リテハ新兵基礎教育終了後之ヲ免ズル義ト了知相成度

軍需糧第一一號

昭和二十年三月二日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長 殿

糧食生産用種畜、種禽及活魚介類ノ整理ニ關スル件通牒

秘海軍公報 第四九四八號 昭和二十年三月四日

二三五

0986

官房需第三九號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 本品ハ糧食材料品(兵備品)トシテ整理スルモノトス
- 二 兵備品取扱主任前號材料品ヲ以テ生産シタル生獸鳥肉又ハ生魚肉ハ納票ニ依リ受入ヲ爲スモノトス
- 三 兵備品取扱主任直接購買ヲ要スルトキハ時價ヲ以テ購買シ、其ノ品名、數量、單價、代價、購入地及供給者名ヲ各月毎ニ所屬海軍軍需部ヲ經テ海軍省軍需局ニ通報スルモノトス

契五第八一號

昭和二十年二月二十七日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

「フリキ」空罐等回收強化ニ關スル件照會

燃料、油脂、「カーバイト」等ノ容器タル「フリキ」空罐及空箱ノ回收ニ關シテハ昭和十五年官房第二三二五號ニ依リ實施シ資材ノ節約空罐ノ活用ニ寄與スル所大ナルモノ有之シ處近時本容器ハ部内各廳ニ於ケル回收量漸減ノ傾向ニアルノミナラズ民間ニ於ケル出廻リ不良ナルト新罐資材ノ緊迫ニ依ル新罐不足等ノ爲極度ニ逼迫セルニ付此ノ際部内ニ於テ發生セルモノハ徹底的ニ回收シ濫ニ使用スルコトナク必ず所定ノ手續ニ依リ指定蒐荷請負人ニ交付シ撰別仕譯ノ上效果的ニ活用ノコトニ留意シ荷モ各廳直接ニ無撰別無仕譯ニテ供給スルガ如キハ絕對ニ之ヲ避ケ

回轉率(普通八回程度)ヲ一層昂ムル要有之ニ付關係者ニ可然示達方取計ヲ得度

○雜 款

○正誤

二月十六日秘海軍公報令達欄第二六號別表第二被交付者ノ欄中「雇員」ノ下ニ「、傭人」ヲ加へ、同別表第二發行廳ノ欄中「當該構内ノ最先任廳長」ハ「當該廳」ノ誤

大東亞戰爭戰歿者故海軍技術中佐登川圭一外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來三月十四日〇九三〇高知市城東國民學校ニ於テ佛式ニヨリ執行

○本日軍機秘海軍公報第九二號(甲配付)發行セリ

秘

海軍公報

第四九四九號

昭和二十年三月五日(月)

海軍大臣官房

○令 達

内令第一六八號

吳鎮守府豫備艦

右第一豫備艦ト定ム

昭和二十年二月二十五日

海軍大臣 田中 元一

内令第一八〇號

横須賀鎮守府豫備艦

右練習兼警備艦ト定メラル

吳鎮守府豫備艦

軍艦 大 淀

右第一豫備艦ト定ム

昭和二十年三月一日

海軍大臣 田中 元一

内令第一八一號

特設艦船部隊令中左ノ通改正セラル

秘海軍公報 第四九四九號

昭和二十年三月五日

海軍大臣 田中 元一

昭和二十年三月一日

海軍大臣 田中 元一

第二條第二號中「特設特別基地隊」ヲ「特設特攻戰隊」ニ改ム
第十四章ノ三ヲ左ノ如ク改ム

第十四章ノ三 特設特攻戰隊

第六十一條ノ四 特設特攻戰隊ハ特設突擊隊及其ノ他ノ艦船部隊又ハ特設艦船部隊ヲ以テ之ヲ編成シ第一特攻戰隊、第二特攻戰隊等ト呼稱ス

第六十一條ノ五 特設特攻戰隊ニ司令官ヲ置ク

司令官ハ所屬長官ニ隸シ部下ノ艦船部隊又ハ特設艦船部隊ヲ指揮統率シ艦隊令中戰隊司令官ニ關スル規定ニ準シ服務ス

第六十一條ノ六 司令官缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ將校軍令承行順序ニ從ヒ其ノ職務

又代理ス但シ所屬長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條ノ七 司令官ノ職務ヲ掌ル所ヲ司令部ト稱ス

司令官ハ所屬長官ノ承認ヲ受ケ其ノ司令部部下ノ特設突擊隊又ハ部隊ニ置ク

第六十一條ノ八 司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀

0988

第六十一條ノ九 司令官ハ必要ニ應シ部下艦船部隊ノ人員ヲ一時部下ノ他ノ艦船部隊ニ轉勤セシムルコトヲ得

第六十一條ノ十 參謀ハ艦隊令第三十八條ノ規定ニ準シ服務ス

第六十一條ノ十一 司令部ヲ置キタル特設突擊隊又ハ部隊ノ修補長、内務長、軍醫長及主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ隊務ニ參與シ艦隊令第四十條、第四十一條又ハ第四十二條ノ規定ニ準シ服務ス但シ艦隊令第四十條中機關長トアルハ修補長又ハ内務長トス

第六十一條ノ十二 第六十一條ノ八ニ掲クル職員ノ外必要ニ應シ司令部ニ司令部附ヲ置ク

司令部附ニハ艦隊令司令部附ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十一條ノ十三 艦隊令第五十一條ノ規定ハ特設特攻戰隊ニ之ヲ準用ス

第六十一條ノ十四 司令官ハ第六十一條ノ五第二項ニ規定スルモノノ外部下ノ特設突擊隊ノ特種兵器ニ關スル教育、研究實驗及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ノ統轄ニ關スルコトヲ掌ル

第十四章ノ四ヲ第十四章ノ五トシ第十四章ノ五ヲ第十四章ノ六トス

第六十一條ノ十七ヲ第六十一條ノ三十四トシ以下第六十一條ノ十九迄順次繰下グ

第十四章ノ三ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第十四章ノ四 特設突擊隊

第六十一條ノ十五 特設突擊隊ハ所要ノ地ニ之ヲ置キ其突擊隊(所在地名ヲ冠ス)又ハ第十一突擊隊、第二十一突擊隊等ト呼稱ス

第六十一條ノ十六 特設突擊隊ハ特種兵器ノ使用及其ノ訓練ニ關スルコトヲ掌ル又必要ニ應シ海軍軍人ニ對シ特種兵器ニ關スル教育ヲ行ヒ且特種兵器ニ關スル研究實驗及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行フ

第六十一條ノ十七 特設突擊隊ニ必要ニ應シ艦船部隊又ハ特設艦船部隊ヲ附屬ス

第六十一條ノ十八 特設突擊隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官

副官

特攻隊長

通信長

内務長

修補長

軍醫長

主計長

分隊長

隊附

前項ノ職員ハ場合ニ依リ其ノ一部ヲ置カス又必要ニ應シ教務

副官、教頭及教官並ニ隊附トシテ軍屬其ノ他ノ人員ヲ置ク

0989

第六十一條ノ十九 司令ハ所屬ノ司令長官又ハ司令官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス

第六十一條ノ二十 司令ハ必要ニ應シ部下職員ヲ一時附屬艦船部隊ニ配屬スルコトヲ得

第六十一條ノ二十一 司令ハ部下ノ兵力ヲ分派スルトキハ其ノ首席ノ指揮官ヲシテ指揮ヲ掌ラシメ自己ノ職權内ノ事ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第六十一條ノ二十二 海軍航空隊令第八條及第九條ノ規定ハ司令ニ之ヲ準用ス

第六十一條ノ二十三 副長ハ司令ヲ輔佐シ隊務ヲ整理シ隊員ノ服務ヲ監督ス

第六十一條ノ二十四 特攻長ハ司令ノ命ヲ承ケ特攻科員ヲ監督シ戦闘ニ當リ指揮ヲ執リ特種兵器ノ使用及整備ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第六十一條ノ二十五 特攻隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ司令指定ノ特攻隊ヲ監督シ戦闘ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ特種兵器ノ使用及整備ニ關スルコトヲ分擔シ主任者ノ指示ニ從ヒ之カ教育訓練ヲ掌リ分擔ノ諸物件ヲ整備ス

第六十一條ノ二十六 通信長ハ司令ノ命ヲ承ケ通信科員ヲ監督シ戦闘ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ通信ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主官ノ諸物件ヲ整備ス

前項ノ外通信長ハ司令ノ命ヲ承ケ通信術ノ教育ヲ監督ス

第六十一條ノ二十七 内務長ハ司令ノ命ヲ承ケ内務科員ヲ監督

シ戦闘ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ内務及機關ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主官ノ諸物件ヲ整備ス

第六十一條ノ二十八 修補長ハ司令ノ命ヲ承ケ修補科員ヲ監督シ戦闘ニ當リ其ノ指揮ヲ執リ特種兵器其ノ他諸物件ノ修補ニ關スルコトヲ擔任シ之カ教育訓練ヲ掌リ主官ノ諸物件ヲ整備ス

第六十一條ノ二十九 軍醫長、主計長及分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ海軍航空隊令中當該職員ニ關スル規定ニ準シ服務ス

第六十一條ノ三十 隊附ハ司令ノ指定ニ依リ上官ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

第六十一條ノ三十一 教務副官ハ司令ノ命ヲ承ケ教務ヲ掌ル

第六十一條ノ三十二 教頭ハ司令ヲ佐ケ教務、特種兵器ノ實驗研究及教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監視シ其ノ業務ニ從事スル職員ノ服務ヲ監督ス

第六十一條ノ三十三 教官ハ司令ノ命ヲ承ケ教育ヲ擔任シ且特種兵器ニ關スル研究實驗又ハ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ掌ル

(内令提要卷一、五九頁參照)

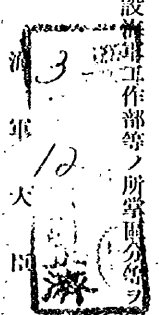
内令第一八二號

昭和十五年內令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌關分等ヲ定ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

秘海軍公報 第四九九號 昭和二十年三月五日

二三九



0990

表中第一海軍經理部青島支部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

第一海軍經理部北京支部	北京	北京方面各部ノ會計經理及會計事務ノ監督ニ關スル事項
第一海軍經理部青島支部	青島	青島方面各部ノ會計經理及會計事務ノ監督ニ關スル事項
第一海軍經理部漢口支部	漢口	漢口方面各部ノ會計經理及會計事務ノ監督ニ關スル事項

(内令提要卷一、三八ノ五〇頁參照)

内令兵第五號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正
昭和二十年三月三日

(二) 呼稱番號區分中

大津海軍航空隊 オツ	大津海軍航空隊 オツ
出水海軍航空隊 イツ	第一出水海軍航空隊 イイツ
元山海軍航空隊 ゲン	元山海軍航空隊 ゲン
相模野海軍航空隊 サカ	第一相模野海軍航空隊 イサカ

3月12日訂正済

二四〇

河和海軍航空隊 カウ	第一河和海軍航空隊 イカウ
那山海軍航空隊 コリ	第一那山海軍航空隊 イコリ
岡崎海軍航空隊 オカ	第一岡崎海軍航空隊 イオカ
第二岡崎海軍航空隊 オカ	第二岡崎海軍航空隊 2オカ
第三岡崎海軍航空隊 オカ	第三岡崎海軍航空隊 3オカ
海軍航空技術廠 コ	第一海軍技術廠 イコ

改メ第二美保海軍航空隊、新竹海軍航空隊及三亞海軍航空隊ノ各項ヲ開ル

(參照) 前記内令兵ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ヲ定ムルノ件ナリ(内令提要卷三、二二六頁)

官房經第九七號

特別賞與支給ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年二月二十八日

一 左ノ各號ノ一ニ該當スル士官、特務士官、准士官、下士官兵及召集中ノ豫備士官、豫備准士官、豫備下士官、豫備兵並ニ文官同待遇者、嘱託者(海軍ノ勤務ヲ本務トセザル者)除ク、員及傭人ニハ本令ニ依リ特別賞與ヲ支給ス
(イ) 年俸又ハ年額ノ報酬ノ支給ヲ受クル者ニ在リテハ年額千

3月12日訂正済

八百二十回以下ノ者

(ロ) 月俸又ハ月額ノ報酬ノ支給ヲ受クル者ニ在リテハ月額百五十回以下ノ者

(ハ) 日給ヲ支給ヲ受クル者ニ在リテハ日額五回以下ノ者

二 特別賞與ハ俸給、給料又ハ報酬ノ一月分(日給者ニ在リテハ日給三十日分)ニ相當スル額(回位未滿ハ之ヲ回位ニ滿タシム)トシ毎年六月三十日現在員ニ付之ヲ支給ス

三 特別賞與ハ其ノ支給期日現在ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ支給セズ但シ海軍ニ在籍ノ儘海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル者ニシテ軍人トシテ特別賞與ノ支給ヲ受クベキモノニ在リテハ軍人タル身分ニ付本人ノ所屬應ニ於テ之ヲ支給ス

(イ) 歸休中ノ者

(ロ) 海軍ニ在籍ノ儘海軍又ハ陸軍ニ徵集又ハ召集中ノ者

(ハ) 停職中ノ者

(ニ) 處刑、留置、勾留又ハ被害事件ノ爲護送中ノ者

四 特別賞與ハ勤務日數又ハ處罰等ニ依リ減額ヲ行ハザルモノトス

五 特別賞與支給期日ニ所屬ヲ變更シタル者ハ舊所屬應ニ於テ之ヲ支給ス但シ特別ノ事情アル場合ハ新所屬應ニ移牒シ之ヲ支給スルコトヲ得

六 特別賞與ハ特別ノ令達ヲキ限り基本給相當科目ヨリ之ヲ支出スルモノトス

秘海軍公報 第四九四九號 昭和二十年三月五日

附則

昭和十九年度分ニ限り第二號ノ規定ニ拘ラズ昭和二十年三月三十一日現在員ニ付之ヲ支給ス

官房第一〇八號

堀江稔氏ヨリ寄贈ノ梅丸ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年三月四日

海軍大臣

船名	船種	所屬	別定數	寄贈者
報國第二五號 (堀江號)	内火艇	沼津海軍工作學校	臨時附屬	神奈川県藤澤市南中通三丁目一三一番地 堀江 稔

官房第一〇九號

津田勝五郎氏ヨリ寄贈ノ内火艇一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年三月四日

海軍大臣

船名	船種	所屬	別定數	寄贈者
報國第二四號 (津田號)	内火艇	紀伊防備隊	臨時附屬	大阪府西區立賣堀北通六丁目八番地 津田勝五郎

遺牒

二四一

艦本機密第一一號ノ三一九七

昭和十六年艦本機密第六八二〇號兵器造修規則第十一條ニ依ル
書類ノ様式別冊中左ノ通改正ス

昭和二十年三月四日

海軍艦政本部長

海軍航空本部長

兵器検査成績表調製心得第二號(イ)中「海軍航空技術廠」ヲ
「海軍技術廠」ニ改ム

○ 雜 款

○校名改稱

海軍工機學校(本校)ハ三月一日横須賀海軍機關學校ト改稱セ
ラレタリ

(横須賀海軍機關學校)

○本日海軍公報發行セフ

0993

秘

海軍公報號外(位勳)

昭和二十年三月四日(日)
海軍大臣官房

<p>○ 叙 位</p> <p>○ 昭和十九年十月十八日 海軍中尉 田中 節一 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十月二十二日 海軍中尉 岸井 廣孝 田中 弘 堀江 宣生 (同各) 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十一月十日 海軍中尉 中島 賢治 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十六日 海軍中尉 梅原忠次郎 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十七日 海軍中尉 畑中 庄吉 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十八日 海軍中尉 江利川 淳 敘從七位</p>	<p>○ 昭和十九年十二月七日 海軍少佐 相田 義家 敘從六位</p> <p>○ 昭和十九年十二月八日 海軍中尉 北村 祐 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十二月十二日 海軍中尉 石丸 房吉 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十二月十五日 海軍中尉 田中 旭 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十二月十六日 海軍少尉 金子 武俊 敘正八位</p> <p>○ 昭和十九年十二月十六日 海軍少尉 鈴木 敏博 中島 弘 (同各) 敘正八位</p> <p>○ 昭和十九年十二月十八日 海軍大尉 山本 勝雄 敘正七位</p>	<p>○ 昭和十九年十二月二十一日 海軍少尉 片山 秀雄 敘正八位</p> <p>○ 昭和十九年十二月二十三日 海軍中佐 蒲原 收 敘正八位</p> <p>○ 昭和十九年十二月二十四日 海軍中尉 關屋 博 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十二月二十六日 海軍大佐 天谷 嘉重 敘正五位(特旨ヲ以テ位一級退陞セラル)</p> <p>○ 昭和十九年十二月二十七日 海軍中尉 中村 孝一 敘從七位</p> <p>○ 昭和十九年十二月二十七日 海軍軍醫少佐 河野 通文 敘從六位</p>
---	--	--

秘海軍公報 號外(位勳)

○昭和十九年十二月二十八日 海軍中尉 高島 輝 敘從七位	○昭和二十年一月五日 海軍少佐 田野 功 敘從六位	○昭和二十年一月十三日 海軍中尉 廣崎 良信 同 吉川 顯敏 敘從七位
○昭和十九年十二月二十九日 海軍少將 赤松嘉一郎 敘從四位(特旨ヲ以テ位一級進陞セラル)	○昭和二十年一月六日 海軍中尉 朝田 精一 敘從七位	○昭和二十年一月十五日 海軍技師 辻 豊 敘從五位
○昭和十九年十二月三十日 海軍大尉 齋藤 敬一 敘正七位	○昭和二十年一月十日 海軍少佐 木村 正 敘從六位	(通各) 海軍大尉 河野 恒一 同 大川 久作 同 廣重市次郎 同 坂口 實 敘正六位(特旨ヲ以テ位一級被進)
○昭和二十年一月二日 海軍中尉 片山 哲 敘從七位	(通各) 海軍中尉 伊東 實 同 山下 光生 敘從七位	海軍大尉 村尾竹三郎 海軍技師 近藤 務 敘從六位(特旨ヲ以テ位一級被進)
○昭和二十年一月三日 海軍大尉 鳥居 芳雄 敘正七位	○昭和二十年一月十一日 海軍大尉 中川 大忠 同 北村 一三 敘正七位	海軍大尉 中島健太郎 海軍中尉 宮澤 一信 同 日下部 武 同 眞下 公忍 同 武田 一郎 海軍技師 中出猛四郎 敘從七位
○昭和二十年一月四日 海軍主計大佐 林 雄二 敘正五位(特旨ヲ以テ位一級進陞セラル)	○昭和二十年一月十二日 海軍中尉 松崎島太郎 同 長澤 清次 敘從七位	(通各) 海軍中尉 宮澤 一信 同 日下部 武 同 眞下 公忍 同 武田 一郎 海軍技師 中出猛四郎 敘從七位

0995

<p>○昭和二十年一月十六日 海軍技師 井上 甚一 敘從七位</p> <p>○昭和二十年一月十七日 海軍中將 高橋 伊望 同 松木 益吉 同 大野 一郎 同 松永 次郎 同 代谷 清志 同 森島 種雄 海軍主計中將 片岡 太郎 海軍少將 福田 貞三郎 同 萩原 竹治郎 海軍法務少將 萩原 竹治郎 敘正四位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>(通各) 海軍少將 佐藤 波藏 同 鈴木 長藏 同 柿本 權一郎 同 向野 一 海軍軍醫少將 矢野 義雄 敘從四位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>○昭和二十年一月十九日 海軍中佐 左近 佐久美 敘正六位</p> <p>○昭和二十年一月二十一日 海軍中尉 前田 治 敘從七位</p>	<p>○昭和二十年一月二十五日 海軍中尉 折井 俊男 敘從七位</p> <p>○昭和二十年一月二十七日 元海軍技師 辻 豊 敘正五位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>○昭和二十年一月二十九日 海軍主計少將 倉富 朋五郎 敘從四位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>○昭和二十年二月一日 海軍中將 塚原 二四三 同 井上 成美 敘從三位</p> <p>(通各) 海軍技師 内林 永昌 敘從五位</p> <p>(通各) 海軍主計大尉 菅 景車 海軍大尉 大澤 孝道 同 里吉 融 同 末廣 鉄助 同 林 雄吉 敘正六位</p>	<p>(通各) 海軍大尉 八田 綿造 同 玉澤 米太郎 同 磯田 榮助 同 片山 實三 敘從六位</p> <p>海軍中尉 泉 寛次 同 佐々木 政吉 同 井上 信榮 同 染 季吉 同 蒲地 秀次 同 山田 宗市 海軍少尉 森安 正巳 海軍技師 長光 忠衛 海軍兵曹長 駒田 輝彦 海軍機關兵曹長 大倉 徳次 海軍上等兵曹 高田 孝太郎 海軍上等機關兵曹 松尾 義夫 海軍書記 松尾 義夫 敘從七位</p> <p>○昭和二十年二月十三日 元海軍技師 工藤 久夫 敘正五位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p>
---	--	--

秘海軍公報(號外)位勳

0996

秘

海軍公報 第四九五〇號

司令官

〇令 達

達第四三號
海軍通常物品會計規程中左ノ通改正ス
昭和二十年三月五日

3月5日
海軍大臣

通常物品出納命令官以下區分表中第六號電波本部ノ項ヲ
削リ第七號第六號トシ以下第十四號迄順次繰上テ第十五號及
第十六號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

副

附則
第六號トシ以下順次繰上テ
本達ハ昭和二十年二月十五日ヨリ之ヲ適用ス
(参照) 會計法規集四卷五頁

十五	技術廠	工場	工場
所屬物品、工場資金所屬物 品及特ニ保管ニ屬セシメラ レタル造船造兵材料物品 事業費所屬圖書、廳費所屬 物品	所屬物品、工場資金所屬物 品及特ニ保管ニ屬セシメラ レタル造船造兵材料物品 事業費所屬圖書、廳費所屬 物品	會計部長	會計部長
會計部長	會計部長	※ハ主計科士官 タル部員	材料課長

秘海軍公報 第四九五〇號 昭和二十年三月六日

昭和二十年三月六日(火)
海軍大臣

官房 2.3.12

官房人機密第二二五號
本年三月一日現在左記上欄各部ノ職員タル者ハ特ニ發令セラ
ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラ
レタル義ト心得ベシ
昭和二十年三月一日

記

海軍大臣

第一田水海軍航空隊	光州海軍航空隊
國分海軍航空隊	觀音寺海軍航空隊
霞ヶ浦海軍航空隊東京分遣隊	東京海軍航空隊
築城海軍航空隊富高分遣隊	岩國海軍航空隊
大村海軍航空隊早分遣隊	諫早海軍航空隊
託開海軍航空隊西條分遣隊	西條海軍航空隊
諫開海軍航空隊福山分遣隊	福山海軍航空隊
姫路海軍航空隊崇山分遣隊	崇山海軍航空隊
博多海軍航空隊天草分遣隊	天草海軍航空隊
洲ノ崎海軍航空隊横須賀分遣隊	川浦海軍航空隊
松山海軍航空隊宇和島分遣隊	宇和島海軍航空隊

0997

二四三

海軍經理部長 一部
 文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人、工員及傭員
 及海軍省人事局長(文官同待遇者
 判任待遇以上ノ囑託者ノミ)
 所管領守府所在地ノ海軍人事部長 一部
 同 海軍經理部長 一部
 所屬警備府(本邦ニ在ルモノ)所
 在地ノ海軍人事部長 一部
 同 海軍經理部長 一部

航本兵機密第一號
 昭和二十年二月二十八日
 海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿
 航空兵器供給換ニ關スル件照會
 海軍航空隊解隊又ハ移動ニ際シ裝備兵器ハ之ヲ航空基地管理部
 隊(廳)ニ供給換相成度
 追テ右兵器ノ供給ヲ受ケタル廳長ハ左記様式ニ依リ其ノ都度
 通報スルト共ニ其ノ寫ヲ準備擔任海軍航空廠長及第二海軍航
 空廠長ニ送付相成度尙昭和十九年四月以降供給換ヲ受ケタル
 各廳ハ右ニ準ジ昭和二十年三月末日迄ニ通報相成度
 記
 解隊(移動)航空隊ヨリ供給換ヲ受ケタル兵器調書
 部隊(廳)名
 (長主管(第 類))

供給元隊名	品名	數目	數量	供給受年月日	記事

(備考) 主管別又ハ類別毎ニ別紙ニ調製ノコト
 海功調機密第一〇號ノ三
 昭和二十年三月五日
 海軍功績調查部長

關係各所轄長殿
 功績名簿ニ關スル件申進
 大東亞戰爭功績調査細則第十條ノ規定ニ依ル首題ノ件調製ニ際
 シ本省ニ履歷原本ヲ有スル者ニシテ同副本ヲ亡失ノ爲作製困難
 ナル場合ハ解リ得ル事項ノミ記載ノ上進達シ得ルコトニ定メラ
 ル
 尙特殊任用進級其中手續中ノ者ニ對シテモ右ニ準ジ進達差支ナ
 キヲ以テ其ノ旨附箋相成度

○雜款
 ○昭和二十年三月中ニ於ケル海軍關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸
 講習實施一覽表

番號	種別	場所	期日	員數	記事
一	船長等(對潛警戒)	潛校	三月八日	約三	第三回

秘

海軍公報

第四九五一號

昭和二十年三月七日(水)

海軍大臣官房

○令 達

達第三七號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ輸送艦二隻ニ左ノ通命名ス
昭和二十年二月二十八日

海軍大臣

川南工業株式會社浦崎造船所ニ於テ建造

第七十二號輸送艦
第七十三號輸送艦

内令第一七二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十八日

海軍大臣

輸送艦、二等第百一號型ノ項中「第百六十號」ノ下ニ「第百七十二號、第百七十三號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一八三號

海軍航空本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

秘海軍公報 第四九五一號 昭和二十年三月七日

第十五條中「發動機」ノ下ニ「航空機用噴進裝置」ヲ加フ

海軍大臣

(内令提要卷二、二四ノ一頁参照)

内令第一八四號

第一海軍技術廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍大臣

第一條中「海軍燃料廠」ノ下ニ「海軍火藥廠」ヲ加フ

第十一條ノ三、噴進部ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 航空用噴進裝置及其ノ屬具並ニ之ガ裝備ノ設計、實驗、研究及調査ニ關スルコト

二 航空用噴進裝置ニ使用スル液藥、火藥、燃料及潤滑油ノ

實用實驗及審査ニ關スルコト

三 航空用噴進裝置及其ノ屬具ノ造修ニ關スル計畫、製圖、

工事方式、入費概算其ノ他關係書類ノ作製ニ關スルコト

四 航空用噴進裝置及其ノ屬具ノ造修工事並ニ之ニ必要ナル

工事用材料物件ノ整備ニ關スルコト

五 航空用噴進裝置及其ノ屬具ノ授受及整理ニ關スルコト

六 航空用噴進裝置及其ノ屬具ノ試驗検査及審査ニ關スルコト

二四七

1001

七 部外工場ニ委託セル所掌工事ノ監督ニ關スルコト
第十二條第二號中「航空用燃料及潤滑油」ノ下ニ「航空用噴進
装置ニ使用スル燃料及潤滑油ヲ除ク」ヲ加フ
第十六條中「推進機部」ノ下ニ「噴進部」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ七頁参照)

内令第一八五號

海軍航空廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍 大 陸 海軍航空廠處務規程中左ノ通改正ス
昭和二十年三月一日

第十條中「航空用發動機」ノ下ニ「噴進裝置」ヲ加フ

第十一條第一號中「發動機」ノ下ニ「噴進裝置」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ一七頁参照)

内令第一八六號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ條件中左ノ通改
正セラル

正セラル

昭和二十年三月一日

海軍 大 陸 海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ條件中左ノ通改
正セラル
昭和二十年三月一日

横須賀鎮守府ノ部中北浦海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

東京海軍航空隊 東京都蒲田區

同部中第二相模野海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

田浦海軍航空隊 横須賀軍港

吳鎮守府ノ部中大和海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

奈良海軍航空隊 奈良縣山邊郡

同部中宇佐海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

高野山海軍航空隊 和歌山縣伊都郡

同部中詫間海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

觀音寺海軍航空隊 香川縣三豐郡

同部中姫路海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

西ノ宮海軍航空隊 兵庫縣西ノ宮市
寶塚海軍航空隊 兵庫縣川邊郡

同部中松山海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

西條海軍航空隊 愛媛縣西條市
宇和島海軍航空隊 愛媛縣宇和島市

同部中吳海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

福山海軍航空隊 廣島縣深安郡
岩國海軍航空隊 山口縣岩國市

佐世保鎮守府ノ部中大村海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

諫早海軍航空隊 長崎縣諫早郡

天草海軍航空隊 熊本縣天草郡

同部中釜山海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

光州海軍航空隊 朝鮮全羅南道光州郡

同部中第一出水海軍航空隊及國分海軍航空隊ノ項ヲ削ル
舞鶴鎮守府ノ部中神町海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

峯山海軍航空隊 京都府中郡

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中霞ヶ浦海軍航空隊東京分遣隊、三重海軍航空隊奈良分遣隊、三重海軍航空隊高野山分遣隊、洲ノ埼海軍航空隊横須賀分遣隊、滋賀海軍航空隊西ノ宮分遣隊、滋賀海軍航空隊寶塚分遣隊、姫路海軍航空隊峯山分遣隊、博多海軍航空隊天草分遣隊、築城海軍航空隊富高分遣隊、大村海軍航空隊諫早分遣隊、詫間海軍航空隊西條分遣隊、詫間海軍航空隊福山分遣隊及松山海軍航空隊宇和島分遣隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一八七號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

秘海軍公報 第四九五一號 昭和二十年三月七日

海軍大臣

峯山航空基地及富高航空基地ノ項ヲ削リ

宮崎航空基地

富高航空基地

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一八八號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年三月一日

海軍大臣

第二相模野海軍航空隊ノ次ニ「東京海軍航空隊」ヲ、

「大和海軍航空隊」ノ次ニ「奈良海軍航空隊」ヲ、

「三重海軍航空隊」ノ次ニ「高野山海軍航空隊」ヲ、

「姫路海軍航空隊」ノ次ニ「西ノ宮海軍航空隊」ヲ、

「倉敷海軍航空隊」ノ次ニ「寶塚海軍航空隊」ヲ、

「詫間海軍航空隊」ノ次ニ「福山海軍航空隊」ヲ、

「松山海軍航空隊」ノ次ニ「觀音寺海軍航空隊」ヲ、

「大村海軍航空隊」ノ次ニ「西條海軍航空隊」ヲ、

「諫早海軍航空隊」ノ次ニ「宇和島海軍航空隊」ヲ、

「天草海軍航空隊」ノ次ニ「岩國海軍航空隊」ヲ、

二四九

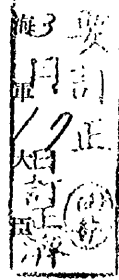
「釜山海軍航空隊」ノ次ニ「光州海軍航空隊」ヲ加ヘ、「第一出水海軍航空隊」及「國分海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第一八九號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件
左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日



筑波海軍航空隊等ノ部中「第二郡山海軍航空隊」ノ下ニ「東京海軍航空隊」ヲ、「大和海軍航空隊」ノ下ニ「峯山海軍航空隊、觀音寺海軍航空隊」ヲ、「姫路海軍航空隊」ノ下ニ「西條海軍航空隊」ヲ、「大村海軍航空隊」ノ下ニ「諫早海軍航空隊、岩國海軍航空隊」ヲ、「釜山海軍航空隊」ノ下ニ「光州海軍航空隊」ヲ加ヘ、「第一出水海軍航空隊、國分海軍航空隊」ヲ削ル

鹿島海軍航空隊等ノ部中「詔開海軍航空隊」ノ下ニ「福山海軍航空隊、天草海軍航空隊」ヲ加フ

洲ノ埼海軍航空隊ノ部ノ次ニ左ノ如ク加フ

田浦海軍航空隊

特修科學生、高等科兵器整備術(雷爆)練習生、兵器整備術(雷爆兵器)ヲ專修スル豫備學生、豫備生徒及整備科豫備練習生ノ教育

土浦海軍航空隊等ノ部中「浦戶海軍航空隊」ノ下ニ「奈良海軍航空隊、高野山海軍航空隊、西ノ宮海軍航空隊、寶塚海軍航空隊、宇和島海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

官房人機密第二二八號

本年二月二十日現在特設砲艦浮島丸又ハ同豊國丸職員タル者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ特設砲艦浮島丸又ハ同豊國丸ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

官房教機密第一一四號

左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル艦艇長任命前ノ兵科豫備將校講習ヲ施行ス

昭和二十年三月五日

海軍大臣

講習場所	講習員數	講習期間
海軍對潛學校	海軍少佐、大尉(海軍豫備員)約十名	自昭和二十年三月五日 至同 五月四日

備考 講習員ハ講習期間中海軍對潛學校附トス

○ 雜 款

○司令艇變更
第二魚電艇隊司令ハ昭和十九年十一月九日司令艇ヲ第三十號艇ニ變更セリ

(第二魚電艇隊)

○空中輸送協力部設置
鈴鹿海軍航空基地ニ於ケル飛行機空中輸送協力部ハ來三月一日ヨリ當隊(第二鈴鹿航空基地)ニ設置スベキニ付自今空中輸送飛行機ノ發着及連絡事項ハ當隊ト連絡ヲトラレ度

(第一〇〇一海軍航空隊)

○開隊

部隊名	所在地	開隊月日	記	事
光州海軍航空隊 (舊第一出水海軍航空隊)	朝鮮全羅南道光 山郡極樂面	三月一日	一、東京旅行順路 線ニ乗換、同松、江、湖、南、本 下、光州、約、六、便、(光州)驛 一、本隊、出、海、軍、航、空、隊 三、第一、隊、出、海、軍、航、空、隊 二、鹿兒島、水、遣、隊、於、之、行 出、基、地、水、遣、隊、於、之、行	東京旅行順路 線ニ乗換、同松、江、湖、南、本 下、光州、約、六、便、(光州)驛 一、本隊、出、海、軍、航、空、隊 三、第一、隊、出、海、軍、航、空、隊 二、鹿兒島、水、遣、隊、於、之、行 出、基、地、水、遣、隊、於、之、行
田浦海軍航空隊 (舊第一出水海軍航空隊)	橫須賀市田浦郷	三月一日	一、東京旅行順路 線ニ乗換、同松、江、湖、南、本 下、光州、約、六、便、(光州)驛 一、本隊、出、海、軍、航、空、隊 三、第一、隊、出、海、軍、航、空、隊 二、鹿兒島、水、遣、隊、於、之、行 出、基、地、水、遣、隊、於、之、行	東京旅行順路 線ニ乗換、同松、江、湖、南、本 下、光州、約、六、便、(光州)驛 一、本隊、出、海、軍、航、空、隊 三、第一、隊、出、海、軍、航、空、隊 二、鹿兒島、水、遣、隊、於、之、行 出、基、地、水、遣、隊、於、之、行

○廳舎移轉
當廳三月一日左記ニ移轉シ新廳舎ニ於テ事務ヲ開始セリ

一、新廳舎 東京都麹町區丸之内三丁目六番地三菱仲二號館四階(省線有樂町驛下車、都電日比谷停留所下車)
二、電話 海軍電話 二三〇八 二三〇九
市内電話 丸之内 五四七七 五八六六 六二四一 七四一六

(船舶救難本部)

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
第三百五十二號設 營隊事務所	吳海軍施設部内	二月〇日	吳鎮交換 二九九七番	二月二日 地ニ移轉
第四百一魚雷調整 隊	千葉縣匝根郡共和村	二月二日		
第三百十三號設 隊	吳海軍施設部内	二月六日		
第十九聯合航空隊 司令部殘務整理班	茨城縣鹿野郡阿見村 土浦海軍航空隊内	三月一日		三月一日 解隊

○轉勤者旅行先

當隊ヘノ赴任轉勤者ハ當分ノ間左ニ依ラレ度

第二〇三海軍航空隊 鹿兒島縣鹿屋市等ノ原航空基地

戰團第三〇三飛行隊 鹿兒島市鹿兒島航空基地

戰團第三二一飛行隊 鹿兒島縣始良郡國分町國分航空基地
追テ旅費ハ各基地迄前金拂(家族移轉料ノ勤務地ハ横須賀市)
ノコトニ取計ハレ度

(第二〇三海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第九四號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、
同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報號外(位勳)

海軍大臣官房

昭和二十年三月六日(火)

○ 敘勳

○昭和十七年十月十日發令

假阻云四〇五四 內務事務官 石澤 守雄

同 美四〇五五 海軍豫備大尉 岡野 梅治

○昭和十八年二月九日發令

假阻云四〇五九 海軍司政官 森岡 勝

○昭和十八年七月十四日發令

假阻云四〇七〇 氣象技師 沖 住雄

○昭和十九年一月十八日發令

假阻云四〇八九 海軍大尉 渡谷 政光

○昭和十九年二月十六日發令

假阻云四〇九〇 海軍司政官 小金井健男

○昭和十九年五月十七日發令

假阻云四〇九四 大藏事務官 篠塚 繁

假阻云四〇九四 大藏事務官 篠塚 繁

○昭和十九年一月二十五日發令

假阻云八六六 海軍少將 山口 信助

假阻云八六六 海軍大佐 岡 三知夫

同 八六六 海軍主計大佐 太田良直治

同 八六六 海軍主計大佐 戸井 常市

同 八六六 海軍中佐 松尾 太一

同 八六六 海軍中佐 芳根 廣雄

同 八六六 海軍中佐 市末 齋丸

同 八六六 海軍中佐 立野 靜夫

同 八六六 海軍中佐 半田仁貴知

同 八六六 海軍中佐 增永 愈

同 八六六 海軍中佐 村松 時夫

同 八六六 海軍中佐 森本 信一

同 八六六 海軍中佐 竹内 仁司

同 八六六 海軍中佐 小園 義雄

同 八六六 海軍中佐 山川 良彦

同 八六六 海軍中佐 宮崎 勇

同 八六六 海軍中佐 奧宮 正武

同 八六六 海軍中佐 郡山 三良

同 八六六 海軍中佐 猿渡 正之

同 八六六 海軍中佐 久保 德男

同 八六六 海軍中佐 井澤 豐

同 八六六 海軍中佐 矢倉 敏

同 三〇四 海軍技術中佐 岡村恒四郎

假阻云二〇四 海軍中佐 竹内山太郎

同 二〇四 海軍中佐 與倉三四三

同 二〇四 海軍中佐 內藤 力

同 二〇四 海軍中佐 中馬 靜男

同 二〇四 海軍中佐 中村秀三郎

同 二〇四 海軍中佐 吉田 文平

同 二〇四 海軍中佐 林 利房

同 二〇四 海軍中佐 富永 貞夫

同 二〇四 海軍中佐 安達 元郎

同 二〇四 海軍中佐 渡邊 昇

同 二〇四 海軍中佐 戸田 弘一

同 二〇四 海軍中佐 大瀧 豊次郎

假阻云三〇六 海軍技師 岩野 直美

同 三〇六 海軍技術中佐 武井 篤

同 三〇六 海軍技術中佐 山崎 正八郎

同 三〇六 海軍技術中佐 小林 康邦

同 三〇六 海軍技術中佐 松本 良介

同 三〇六 海軍技術中佐 半田 久重

同 三〇六 海軍技術中佐 設樂 長男

同 三〇六 海軍技術中佐 芳村 升

同 三〇六 海軍技術中佐 三枝 欣二郎

秘海軍公報 號外(位勳)

秘

海軍公報號外 (刑罰)

○懲罰

懲罰言渡書

昭和二十年三月七日(水)

海軍大臣官房

秘海軍公報 號外(刑罰)

1011

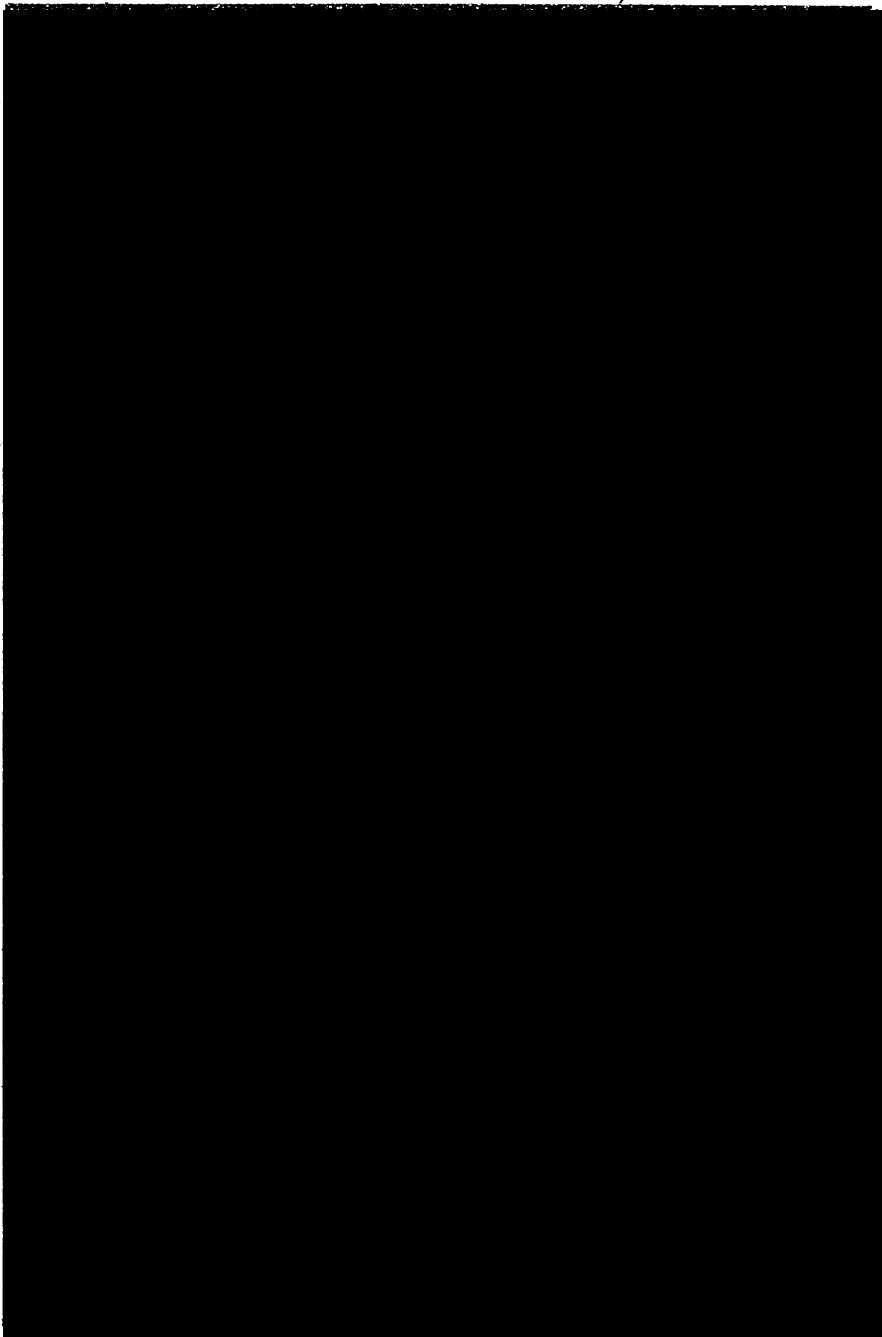
秘
海
軍
公
報

號
外
(
刑
罰
)

1012

秘海軍公報 號外(刑罰)

三



1013

秘
海軍公報
號外(刑罰)

四

1014

秘海軍公報 號外(刑罰)

五

1015

秘海軍公報 號外(刑罰)

六

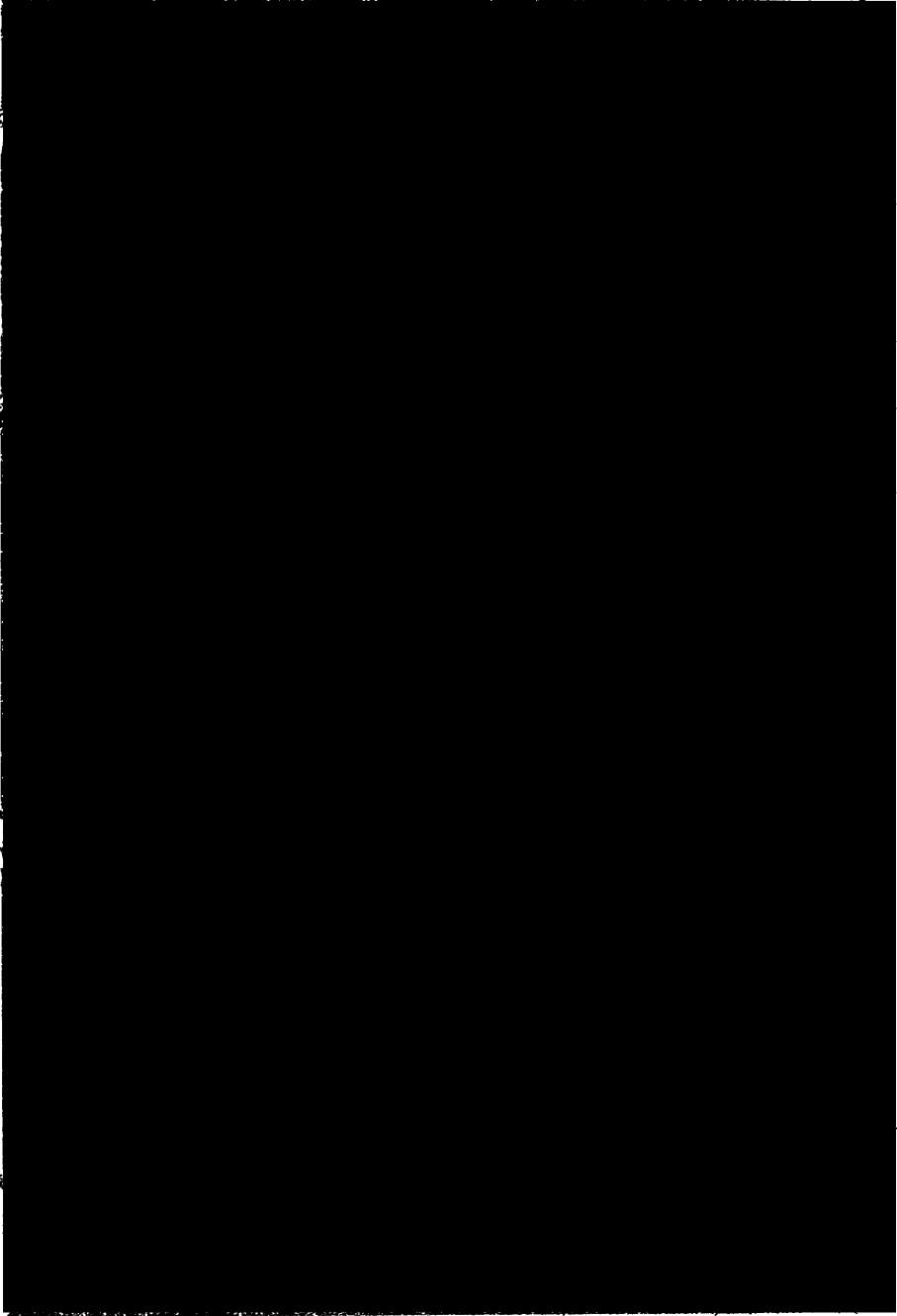
1016

秘海軍公報
號外(刑罰)

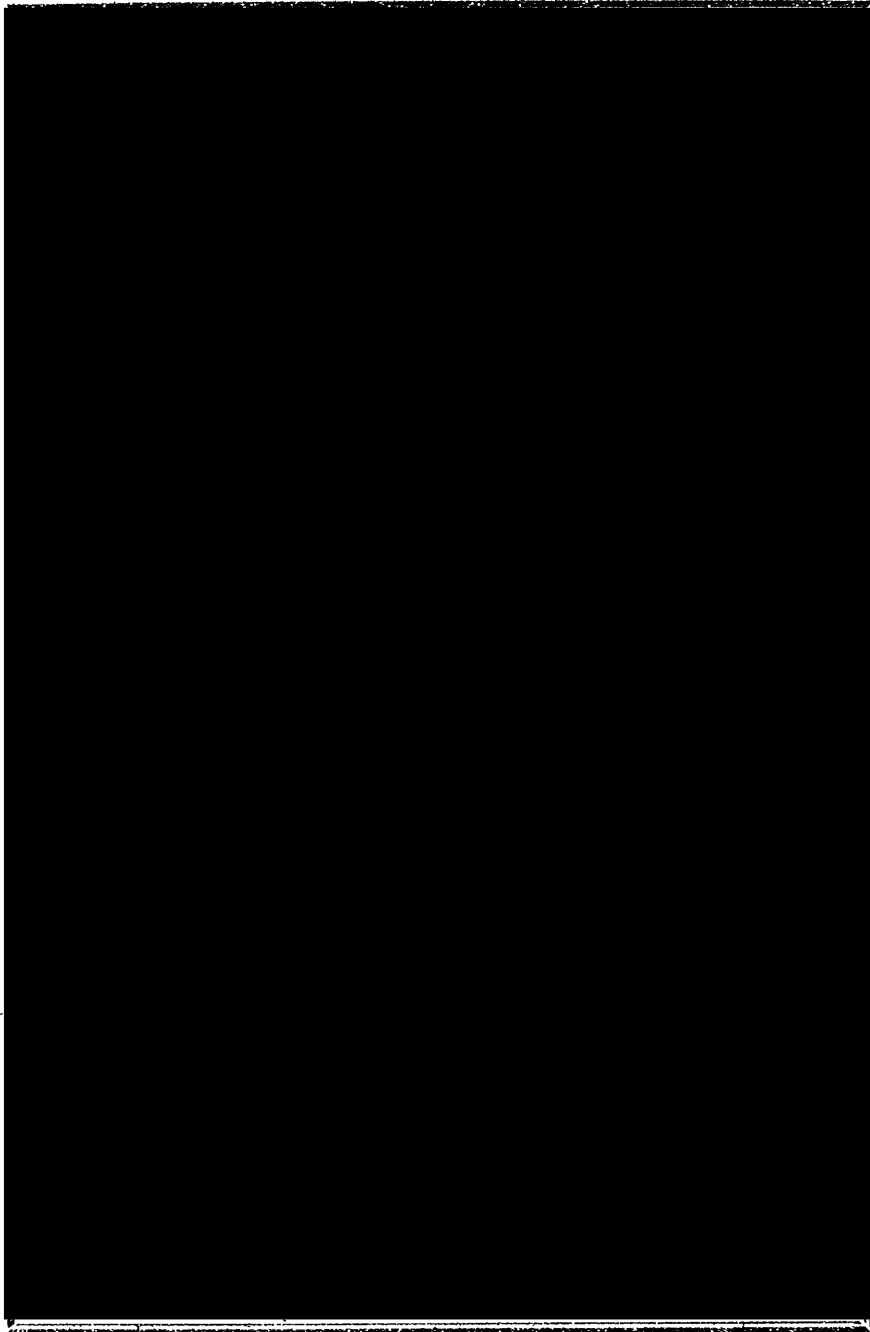
七

1017

1018



秘海軍公報 號外(刑罰)



九

1019

秘海軍公報 號外(刑罰)



1020